

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：静岡県立大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	36	下 9	資料 3、 <u>p. 6</u>	資料 3、 <u>p. 6、9、13~14</u>
2	36	下 7、 8	学 <u>修</u>	学 <u>習</u>
3	41	12	資料 3、 <u>p. 1-20</u>	資料 3、 <u>p. 11-20</u>
4	36	下 5	<u>10</u> 単位	<u>15</u> 単位
5	53	下 6	資料 8-1 <u>p. 3-4</u>	資料 8-1 <u>p. 1-2</u>
6	61	9	基礎資料 <u>8</u>	基礎資料 3-1、基礎資料 <u>5</u>
7	62	下 7	FD 講演会等	FD 講演会

■基礎資料

	資料 番号	頁	箇所	誤	正
1	2	38	(5) 地域の保健・ 医療・福祉への参 画 2 地域保健(公 衆衛生、学校薬 剤師、啓発活動) への参画 2) 前) 公衆衛生に 求められる具体的 な感染予防を説 明できる	未記載	1 年に「公衆衛生学」 を追加
2	4	44	2024 年度入試		全データを修正(赤 字)
3	4	44	募集定員数に対 する入学者数の 比率	107.3%	107.7%(赤字)
4	7	50	2 人目	静岡の防災と医療(しずおか学)、 静岡の健康長寿を支える取り組み	4 件のデータを削除

				と人々(しずおか学)、臨床検査総論、医用工学実習	
5	7	50	4人目	静岡の防災と医療(しずおか学)	1件のデータを削除
6	7	51	1人目	静岡の防災と医療(しずおか学)、静岡の健康長寿を支える取り組みと人々(しずおか学)	2件のデータを削除
7	7	51	4人目	化学系薬学実習 II	1件のデータを削除
8	7	51	6人目	静岡の防災と医療(しずおか学)	1件のデータを削除
9	7	52	2人目「有機化学Ⅲ」、「有機化学Ⅳ」	「有機化学Ⅲ」授業時間 <u>0</u> 時間、年間で平均した週当り授業時間 <u>0</u> 時間、「有機化学Ⅳ」授業時間 <u>0</u> 時間、年間で平均した週当り授業時間 <u>0</u> 時間	「有機化学Ⅲ」授業時間 <u>1.50</u> 時間、年間で平均した週当り授業時間 <u>0.05</u> 時間、「有機化学Ⅳ」授業時間 <u>1.50</u> 時間、年間で平均した週当り授業時間 <u>0.05</u> 時間
10	9	3	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	好中球を用いた炎症部位に対する DDS 技術の開発 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会	評価対象年度外の 1 件のデータを削除
11	9	5	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
12	9	5	I 教育活動 2 作成した教科書、教材、参考書	2019 年 学際的創薬科学論(京都 廣川書店)分担執筆	直近 5 年以前の 1 件のデータを削除
13	9	7	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
14	9	7	I 教育活動 2 作成した教科書、教材、参考書 1 件目、4 その他教育活動上特記すべき事項 2 件目	2019-2023年 担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)で使用するレジユメを作成し学生に配付した。2021-2023年 FD講演会:2021年「薬学教育の質保証とモデル・コアカリキュラムの在り方」平田收正先生、2022年「コーチング」	2件のデータを削除

				伊野美幸先生、2023年「授業をやめ臨床現場を経験すれば、学生は自ずから勉強する」泉美貴先生を拝聴した。いずれの講演も自分の教育手法の改善に非常に役立つものであった。	
15	9	7、8	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	喘息患者の重症度および予後に与えるビタミン D 受容体遺伝子多型の影響 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会、プロトンポンプ阻害薬服用患者における腎機能の長期変動:日本の単施設データベースを用いた縦断研究 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会	評価対象年度外の 2 件のデータを削除
16	9	8	Ⅱ 研究活動 2 学会発表		2 件のデータを追加 (赤字)
17	9	9	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	治験・臨床試験を担うスタッフ養成のための大学院講座-20 年の変遷と現況-2024 年 4 月 日本薬学会第 144 年会	データを修正 (赤字)
18	9	13	Ⅱ 研究活動 1 著書・論文等の名称	Genetic risk factors for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with cancer receiving cisplatin-based chemotherapy. 共著 2018 年 5 月 Support Care Cancer. 26(5), 1505-1513 (2018)	直近 5 年以前の 1 件のデータを削除
19	9	15	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	創薬を志向した FFA3 モジュレーターの新合成研究 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会	評価対象年度外の 1 件のデータを削除
20	9	15	Ⅲ 学会および社会における主な活動 年月日		データを修正 (赤字)
21	9	17	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	テープ製剤におけるアトモキセチンの in vitro 皮膚透過性に及ぼす経	評価対象年度外の 1 件のデータを削除

				皮吸収促進剤の影響 2023年3月 日本薬学会第143年会	
22	9	20	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
23	9	22	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
24	9	24	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
25	9	26	II 研究活動 1 著書・論文等の名称	Transfer of vaginal chloramphenicol to circulating blood in pregnant women and its relationship with their maternal background and neonatal health. 共著 2017年7月 J Infect Chemother. 2017 Jul;23(7):446-451. 、 Trends in Non-prescription Drug Recalls in Japan. 共著 2016年9月 Yakugaku Zasshi. 2016;136(9):1307-12. 、 Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. 共著 2014年12月 Clin Biochem. 2014 Oct;47(15):54-9.	直近5年以前の3件のデータを削除
26	9	27	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
27	9	27	II 研究活動 1 著書・論文等の名称	Maintenance of intestinal epithelial homeostasis by zinc transporters. 共著 2019年3月 Dig. Dis. Sci. Mar 4.、Regulatory role of GRK2 in the TLR signaling-mediated iNOS induction pathway in microglial cells. 共著 2019年2月 Front. Pharmacol. 4;10:59	評価対象年度外の2件のデータを削除
28	9	27	II 研究活動 1 著書・論文等の名称		2件のデータを追加(赤字)

29	9	27	Ⅱ 研究活動 1 著書・論文等の名称 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称		データを修正(赤字)
30	9	31	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	生物薬剤学的特性改善を指向した薬物送達システムの構築 2023年3月 日本薬学会 第143年会	評価対象年度外の1件のデータを削除
31	9	39	I 教育活動 1 教育内容・方法の工夫 概要	担当する公衆衛生学、衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、毒性学において、教科書に加えて、要点や関連情報(官公庁資料、時事ニュース等)、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行った。	上から5行を削除
32	9	41	職名	教授	助教(赤字)
33	9	47、48	Ⅱ 研究活動 2 学会発表	依存行為と心理特性の関連性について -CMI 調査から心理療法の方向性を考える- (共著) 2019年11月 第25回日本精神保健社会学会学術大会、いかにして大学体育における未経験者のトラップ技術を向上させるか -自己効力理論に基づいた心理教育指導の試み- (共著) 2020年11月 第26回日本精神保健社会学会学術大会、薬学部学生に対する体育実技を通じた健康教育ならびに行動変容理論の学習が運動意図とその背景要因に及ぼす効果 (共著) 2021年9月 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会、大学生に対する遠隔授業によるストレスマネジメント教育の効果につ	評価対象年度外の5件の全データを削除

				いて(共著) 2021年9月 日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会、TEGⅡを用いた心理系授業後の心理的变化に関する研究ーオンデマンド方式を通してー(共著) 2021年11月 第27回日本精神保健社会学会学術大会	
34	9	51	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
35	9	53	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
36	9	53	II 研究活動 2学会発表	消化管で標的分子を吸着するナノ掃除機の開発 2022年3月 第2回 BVA バイオインターフェース、生体内で標的分子を吸着する多官能性ナノ粒子製剤の開発と疾患治療への応用 2022年5月 日本薬剤学会第37年会、凍結融解技術を駆使した核酸・タンパク質送達方法の開発 2022年6月 第38回日本 DDS 学会学術集会、血液中で標的分子を中和するポリマーリガンド修飾リポソームの開発 2022年9月 第71回高分子討論会、敗血症治療を可能とする合成高分子ナノ粒子開発 2022年11月 第17回ナノ・バイオメディカル学会大会、温度に応答して標的ペプチドを吸着・放出する合成高分子ナノ粒子の開発とがん治療応用 2021年9月 第70回高分子討論会	評価対象年度外の6件の全データを削除
37	9	57	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)

38	9	63	I 教育活動 年月日		データを修正(赤字)
39	9	65	II 研究活動 2学会発表		3件のデータを修正(赤字)
40	9	67	II 研究活動 2学会発表	Cytochrome P450 for creation of dimerized diketopiperazines 2023年1月 International Conference on NATURAL PRODUCT DISCOVERY and DEVELOPMENT in the Genomic Era、Biosynthetic study on natural products from actinomycetes through an OSMAC method 2023年3月 日本農芸化学会 2023年度大会、Furocoumarin 系化合物1と DHODH の相互作用に関する研究 2023年3月 日本薬学会 第143年会	評価対象年度外の3件のデータを削除
41	9	69	II 研究活動 2学会発表	紡錘体形成における染色体整列を阻害する低分子化合物の同定 2023年3月 日本薬学会第143回年会	評価対象年度外の1件のデータを削除
42	9	69	II 研究活動 2学会発表		4件のデータを追加(赤字)
43	9	70	III 学会および社会における主な活動 年月日		データを修正(赤字)
44	9	79、80	II 研究活動 2学会発表	Anserine, an Imidazole Dipeptide, Suppressed Pressure-overload Induced Cardiac Hypertrophy through the Regulation of p300-HAT Activity 2023年3月 第87回日本循環器学会学術集会、Novel p300 Binding Protein 1 is Required for Hypertrophic and	評価対象年度外の2件のデータを削除

				Fibrotic Responses in Cardiomyocytes and Cardiofibroblasts 2023 月 3 月 第 87 回日本循環器学会学術集会	
45	9	81、 82	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
46	9	84	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
47	9	86	II 研究活動 1 著 書・論文等の名称 発行所 発表雑 誌 (巻・号数)等 の名称		データを修正(赤字)
48	9	86	II 研究活動 2 学 会発表	Notch O-グルコース糖鎖修飾に関 する生物化学的研究～構造から疾 患まで 2023 年 1 月 糖鎖科学中 部拠点第 18 回若手のカフォーラ ム	評価対象年度外の 1 件のデータを削除
49	9	89	II 研究活動 2 学 会発表	多機関共同研究とキャリアパス:薬学 部臨床系教員としての活動 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会、 遠隔転移膵癌患者のゲムシタピン 薬効発現に関する遺伝子多型解 析研究(GENESECT 試験) 2023 年 3 月 日本臨床腫瘍薬学会学 術大会 2023	評価対象年度外の 2 件のデータを削除
50	9	93	II 研究活動 2 学 会発表	高い過飽和維持能を示すクルクミ ン固体分散体の調製 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会	評価対象年度外の 1 件のデータを削除
51	9	94	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
52	9	94	II 研究活動 1 著 書・論文等の名称	Anti-Idiotypic DNA Aptamer Affinity Purification-High- Temperature Reversed-Phase Liquid Chromatography: A Simple, Accurate, and Selective	直近 5 年以前の 1 件 のデータを削除

				Bioanalysis of Bevacizumab 共著 2019年2月 Molecules, 24:857	
53	9	95	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表	抗体医薬の新規バイオアナリシ 法の開発【依頼講演】 2021年11 月 第61回 日本臨床化学会年 次学術大会、Bioanalysis of therapeutic monoclonal antibodies using DNA aptamers as new affinity ligands【依頼講演】 2021 年9月 The 31st International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA2021)、 誘導体化技術を駆使した高感度か つ高精度なキラルメタボロミクス【依 頼講演】 2019年5月 第79回分 析化学討論会	評価対象年度外の3 件のデータを削除
54	9	96	Ⅱ 研究活動 1 著 書・論文等の名称	Plant-derived secretory component forms secretory IgA with shiga toxin 1-specific dimeric IgA produced by mouse cells and whole plants. 共著 2019年2月 Plant Cell Rep, 38: 161-172.	直近5年以前の1件 のデータを削除
55	9	96	Ⅱ 研究活動 1 著 書・論文等の名称 発行または発表 の年月(西暦)		データを修正(赤字)
56	9	96	Ⅱ 研究活動 1 著 書・論文等の名称		1件のデータを追加 (赤字)
57	9	96	Ⅲ 学会および社 会における主な活 動		1件のデータを追加 (赤字)

58	9	104、 105	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表	DNA clamp 構造生物学研究の新 展開 2023 年 1 月 東京農業大学 大学院講義、 Structural basis for genome modality of DNA mismatch repair 2022 年 11 月 学術変革領 域研究 A DNA の物性から理解す るゲノムモダリティ領域会議、 シ ミ・そばかすの原因タンパク質の X 線結晶構造解析 2021 年 11 月 東京農業大学大学院講義、 ATR-Chk1 経路を担う checkpoint clamp 複合体の構造解析 2019 年 11 月 第 25 回 DNA 複製・組換 え・修復ワークショップ	評価対象年度外の 4 件のデータを削除
59	9	106	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
60	9	106	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表	Role of the mechanosensing machinery in skeletal muscle homeostasis 2023 年 3 月 第 100 回日本生理学会年会、 The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration 2023 年 3 月 International Symposium on Mechanobiology for Human Health	評価対象年度外の 2 件のデータを削除
61	9	106	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表		2 件のデータを追加 (赤字)
62	9	108	Ⅱ 研究活動 1 著 書・論文等の名称	Sensitive and rapid quantification of exosomes by fusing luciferase to exosome marker proteins. 共著 2018 年 9 月 Sci Rep. 8:14035.	直近 5 年以前の 1 件 のデータを削除

63	9	116、 117	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表	Creating a clear research story: Narrative, slide design, and grammar 2023 年 2 月 日本薬剤 学会 Global Education Seminar West 2022 - 2 nd 、Advanced academic communication: Journal article writing and research ethics 2023 年 10 月 鳥取大学大学院連 合農学研究科 Academic Science Communication Meeting 2 2022、 Telling a clear research story 2021 年 8 月 日本生化学会 生 化学若い研究者の会 Summer School 2021、From basic to advanced: Six ways to improve your English presentation 2019 年 9 月 Liposome Research Days 2019 Satellite Lecture	評価対象年度外の 4 件のデータを削除
64	9	116、 117	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表		2 件のデータを追加 (赤字)
65	9	124	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
66	9	124、 125	Ⅱ 研究活動 2 学 会発表	ドパミン作動性神経におけるシアリ ダーゼアイソザイム NEU2 の機能 解明 2023 年 1 月 糖鎖科学中部 拠点第 18 回若手のカフォーラム、 天然素材由来シアリダーゼは皮膚 におけるエラスチン量を増加させる 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会、線条体に高い発現を示す シアリダーゼアイソザイム NEU2 の ドパミン作動性神経における機能 解析 2023 年 3 月 日本薬学会第 143 年会、認知症発症リスク因子 となるシアル酸分子種のラット腸管 における吸収過程の検討 2023 年	評価対象年度外の 5 件のデータを削除

				3月 日本薬学会第143年会、 Impaired blood-brain barrier integrity during postmenopause induced neuropathic sialic acid accumulation 2023年3月 日本薬 学会第143年会	
67	9	129	II 研究活動 1 著 書・論文等の名称	生細胞内の熱クロストークが見えた 単著 2023年5月 月刊化学, 78 巻、細胞自律的な細胞内温度の 制御機構 共著 2020年12月 細胞, 52巻	2件のデータを削除
68	9	133	I 教育活動 2 作成した教科書、 教材、参考書		1件のデータを追加 (赤字)
69	9	133	II 研究活動 2 学 会発表	Noble Heart Failure Therapy Using Natural Compound, Curcumin 2023年2月 The First International Conference of CMARS (Cardiovascular, Metabolic, and Aging Research Symposium)、HFpEFの新薬の臨 床展開から基礎的心不全研究のア ップデートまで 2022年11月 日 本病院薬剤師会東海ブロック・日 本薬学会東海支部 合同学術大 会 2022、クルクミンの展開医療研 究 2022年8月 生体機能と創薬 シンポジウム 2022 静岡、GATA4 による心不全制御メカニズム 2021 年11月 第94回日本生化学学 会	評価対象年度外の4 件のデータを削除
70	9	135	II 研究活動 2 学 会発表	静岡県立大学薬学部学生の「薬 害」に対する意識調査～平成29 年度薬学講座 “薬害を知り、薬害 を考え、薬害を防ぐ” より～ 2019 年3月 日本薬学会	評価対象年度外の1 件のデータを削除

71	9	151	I 教育活動 年 月日		データを修正(赤字)
72	9	154	II 研究活動 2 学 会発表 発表年・ 月		データを修正(赤字)
73	9	154	III 学会および社 会における主な活 動	2025 年 PACIFICHEM 2025 オ ーガナイザー、2015 年～2017 年 日本学術振興会 特別研究員等 審査会専門委員および国際事業 委員会書面審査委員	直近 5 年以外の 2 件 のデータを削除
74	9	155	II 研究活動 1 著 書・論文等の名称		2 件のデータを追加 (赤字)
75	9	155	II 研究活動 2 学 会発表 発表年・ 月		データを修正(赤字)
76	9	155	III 学会および社 会における主な活 動		4 件のデータを追加 (赤字)

	学科名	入試の種類		2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	2023年度入試	2024年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(2018年度実施)	(2019年度実施)	(2020年度実施)	(2021年度実施)	(2022年度実施)	(2023年度実施)	
薬学部	薬	一般入試	受験者数	471	256	562	345	517	611	107.7%
			合格者数	83	88	86	80	80	79	
			入学者数(A)	53	56	56	55	47	55	
			募集定員数(B)	54	54	54	54	54	54	
			充足率(A/B)(%)	98.1%	103.7%	103.7%	101.9%	87.0%	101.9%	
	薬学	大学入学共通テストを免除する学校推薦型選抜	受験者数	46	50	47	51	50	49	
			合格者数	13	16	21	18	19	21	
			入学者数(A)	13	16	21	18	19	21	
			募集定員数(B)	13	13	13	13	13	13	
	薬学	大学入学共通テストを課す学校推薦型選抜	受験者数	47	26	35	27	44	26	
			合格者数	18	9	16	14	16	13	
			入学者数(A)	18	9	16	14	16	13	
			募集定員数(B)	13	13	13	13	13	13	
	薬科	帰国生徒選抜	受験者数	0	0	1	1	1	0	
			合格者数	0	0	0	0	1	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—	
	薬科	私費外国人選抜	受験者数	4	0	0	1	0	1	
			合格者数	1	0	0	1	0	0	
			入学者数(A)	1	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—	
	学科計		受験者数	568	332	645	425	612	687	
			合格者数	115	113	123	113	116	113	
入学者数(A)			85	81	93	87	82	89		
募集定員数(B)			80	80	80	80	80	80		
充足率(A/B)(%)			106.3%	101.3%	116.3%	108.8%	102.5%	111.3%		

- [注]
- 1 入試の種類は例示です。受審大学の実態に即した名称を記入してください。
 - 2 6年制課程が複数学科あるが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に連記して「学科計」欄を「学部計」としてください。
 - 3 6年制課程が複数学科あり入試を学科別に行っている場合は、学科毎に欄を設けた上で、末尾に「学部合計」欄も設けてください。
 - 4 4年制学科を併設するが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に4年制学科名も記入し、「学科計」欄を「学部計」とした上で、欄外に『(備考)○年次進級時に6年制学科と4年制学科に分割する。なお、薬学科(6年制)の定員は△△△名である。』という「注」を記載してください。
 - 5 「入試の種類」が対象年度の間に変更されている場合は、すべての種類を記入した上で、対応のない年度の欄に斜線を入れてください。
 - 6 「入学者数(A)」には、各年度の5月1日に在籍した新入学者を構成する入試の種類ごとの入学者数を記入してください。
 - 7 「募集定員数(B)」には、各年度の募集要項に記載した人数を記入してください。
 - 8 充足率は募集定員に対する入学者の割合(A/B)を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。ただし、募集定員が「若干名」の場合は「—」とします。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学分野	職名 教授	氏名 石川 智久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019-2023年度	(薬理学II、III) 講義で使用するスライドのpdfファイルを予めイントラネットに公開し、学生が予習に活用できるよう配慮している。講義ではスライドにタブレットを使って書き込みを行うことで、学生が理解しやすいように工夫している。	
	2019-2023年度	(生物統計学) 統計解析の方法だけでなく、考え方を理解させることに主眼を置いている。Excel関数を利用した統計解析の手順をプロジェクターで映写しながら説明している。各講義後には、統計解析を実践する課題を課し、次回講義で解説している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年3月30日	詳解薬理学 (廣川書店) 分担執筆	
	2019年8月30日	図解薬理学 (南山堂) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) GDP-bound Rab27a regulates clathrin disassembly through HSPA8 after insulin secretion	共著	2023年11月	Arch. Biochem. Biophys. 749: 109789.
(論文) Non-target GC-MS analyses of fecal VOCs in NASH-hepatocellular carcinoma model STAM mice	共著	2023年6月	Sci. Rep. 13: 8924-8924.
(論文) Asymmetric dimethylarginine accumulation under hyperglycemia facilitates β -cell apoptosis via inhibiting nitric oxide production	共著	2022年12月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 637: 108-116.
(論文) Na^+ -dependent inactivation of vascular $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger responsible for reduced peripheral blood flow in neuropathic pain model.	共著	2021年8月	Eur. J. Pharmacol. 910: 174448.
(論文) Diacylglycerol kinase δ functions as a proliferation suppressor in pancreatic β -cells	共著	2021年5月	FASEB J. 35: e21420.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Exploration of signaling molecules involved in the reversion of activated hepatic stellate cells utilizing structural modification of small molecule compounds		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) Involvement of NRF2 transcription activity in prostaglandin E2-induced facilitation of the inhibitory effect of caffeine on hepatic stellate cell activation		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	臨床薬効解析学分野
職名	教授	氏名	伊藤 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年度	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドは印刷物として配布した。
		2020-2023年度	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfとして配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年4月	図解 薬害・副作用学 第3版(南山堂) 分担執筆
		2023年7月	コメディカルの薬理学第4版(朝倉書店) 分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年8月	2022年度薬学部オープンキャンパス(Web配信)において、模擬講義を担当した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2023年度	研究室の指導学生が、日本薬学会第143年会学生優秀発表賞(2名)、第6回フレッシュヤーズ・カンファレンス優秀演題発表賞(1名)、第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム優秀発表賞(1名)、日本薬学会東海支部合同学術大会2023ベストプレゼンテーション賞(1名)を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
(論文) Changes in estimated glomerular filtration rate in patients administered proton pump inhibitors: a single-center cohort study.		共著	2023年12月
(論文) A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant, and olanzapine for a cisplatin-containing regimen. - PATROL-I		共著	2023年12月
(論文) Chemotherapy-induced neutropenia as a prognostic factor in patients with extensive-stage small cell lung cancer.		共著	2023年3月
(論文) Benralizumab restores gene and microRNA expression involved in steroid sensitivity in severe asthma.		共著	2021年8月
(論文) Circulating microRNA-15b-5p as a biomarker for asthma-COPD overlap.		共著	2021年5月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 重症喘息患者におけるベンラリズマブの有効性に対するIL1RL1シグナルの関与		2023年6月	第6回フレッシュヤーズ・カンファレンス
(演題名) 喘息患者におけるPI3K経路の活性化はステロイド反応性を低下させ予後悪化に関連する		2023年9月	第17回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム

(演題名) 重症喘息患者におけるステロイド反応性の低下機序	2023年10月	第72回日本アレルギー学会 学術大会
(演題名) 喘息患者の重症度およびステロイド反応性に対するIL7Rの関与	2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブ ロック日本薬学会東海支部 合同学術大会2023
(演題名) 喘息患者のステロイド反応性に対する炎症経路関連分子の遺伝子多型の影響	2024年3月	日本薬学会第144年会
(演題名) がん患者血清中抗CSPG4自己抗体の測定と腫瘍マーカーへの応用	2024年3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2011年4月～現在	東海薬学教育コンソーシアム 運営委員	
2011年4月～現在	日本薬学会 代議員	
2011年11月～現在	静岡メディスン アドバイザー	
2015年6月～現在	静岡県薬剤師会 常務理事	
2021年1月～現在	静岡県立静岡がんセンター臨床研究倫理審査委員会 技術専門員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬食研究推進センター	職名 講師	氏名 伊藤 由彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する情報科学、科学演習において、ITを活用し双方向性のあるインタラクティブな講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年3月	コメディカルのための薬理学 第4版 (朝倉書店) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Comparative characterization on -adrenoceptors in the bladder, heart and lung of rats: Alterations in spontaneously hypertensive rats.	共著	2022年1月	J Pharmacol Sci, 148: 51-55
(論文) Direct in vitro and in vivo demonstration of muscarinic receptor binding by the novel radioligand, [3H]5-hydroxymethyltolterodine, in the bladder and other tissues of rats	共著	2020年3月	J Pharmacol Sci, 142: 127-130
(論文) Effects of combined treatment with fesoterodine and mirabegron in a pelvic congestion rat model: Results from in vitro and in vivo functional studies	共著	2020年5月	Lower Urinary Tract Symptoms, 12: 173-179
(論文) Conformational restriction of histamine with a rigid bicyclo[3.1.0]hexane scaffold provided selective H3 receptor ligands	共著	2020年8月	Molecules, 5;25(16):3562
(論文) Muscarinic receptor binding of fesoterodine, 5-hydroxymethyl tolterodine, and tolterodine in rat tissues after the oral, intravenous, or intravesical administration	共著	2019年5月	J Pharmacol Sci 140: 73-78
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 褐藻類抽出エキスの低活動膀胱への応用		2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) 治験・臨床試験を担うスタッフ養成のための大学院講座—20年の変遷と現状—		2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2009年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人		
2013年～現在	日本薬理学会学術評議委員		
2021年～現在	静岡県災害薬事コーディネーター		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品化学分野	職名 講師	氏名 岩本 憲人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する無機化学、化学系薬学実習IIにおいて、教科書に加えて、補足事項を印刷物として配布した。配布物はpdf化し、印刷物とともにダウンロードして活用できるようにした。また、すべての講義内容を動画化し、予習・復習に活用できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019～2023年 度	無機化学 全15回 動画
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年1月～2023年12月		日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学	職名 教授	氏名 梅本 英司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年～ 2023年度	担当する微生物学、免疫学、遺伝子工学において教科書に参考書や関連情報を加えたスライドを用いて講義を行った。スライドはpdfの事前配布および印刷物を当日配布した。国家試験での関連にも触れたり、遺伝子工学では小グループでの議論を取り入れるなどして学習の動機づけを図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2023年度	研究室の指導学生が日本薬学会東海支部合同学術大会2023でベストプレゼンテーション賞を受賞した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Pyruvate enhances oral tolerance via GPR31.	共著	2022年7月	Int Immunol. 34:343-352.
(論文) Extracellular ATP Limits Homeostatic T Cell Migration Within Lymph Nodes.	共著	2021年12月	Front Immunol. 12:786595.
(論文) Hv1/VSOP regulates neutrophil directional migration and ERK activity by tuning ROS production	共著	2020年5月	J Leukoc Biol. 107:819-831.
(論文) High-endothelial cell-derived S1P regulates dendritic cell localization and vascular integrity in the lymph node.	共著	2019年10月	eLife. 8:e41239.
(論文) GPR31-dependent dendrite protrusion of intestinal CX3CR1 ⁺ cells by bacterial metabolites.	共著	2019年2月	Nature. 566:110-114.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GPR31 signaling enhances immune responses in Peyer's patches by inducing dendrite protrusion of CX3CR1 ⁺ phagocytes to M cells		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) TRPV1 ⁺ sensory neuron enhances dendritic cell migration to lymph nodes by a CGRP-RAMP1 axis in contact hypersensitivity		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) 接触過敏症の感作相において、神経ペプチド CGRP は RAMP1 を介して樹状細胞のリンパ節への移動を促進する		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
(演題名) TRPV1 ⁺ 感覚神経は接触過敏症において神経ペプチドCGRPを産生することで樹状細胞の移動を促進する		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
(演題名) GPR35の脂肪組織マクロファージを介した炎症制御の解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品創製化学分野
職名		氏名	江上 寛通
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年 ~2023年度	有機合成論において、要点をまとめたプリントを中心に講義を展開し、その知識の定着を図るために毎回演習問題を課した。理解度と応用力の向上を目指し、毎週、受講する全学生一人一人にフィードバックを行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年3月	化学系薬学実習実習書
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Simple purification of small-molecule-labelled peptides via palladium enolate formation from β -ketoamide tags	共著	2023年7月	Chem. Sci., 14: 8249-8254.
(論文) Asymmetric Fluorofunctionalizations with Carboxylate-Based Phase-Transfer Catalysts	共著	2023年7月	Chem. Rec., 23: e202200285.
(論文) Structure Dependence in Asymmetric Deprotonative Fluorination and Fluorocyclization Reactions of Allylamine Derivatives with Linked Binaphthyl Dicarboxylate Phase-Transfer Catalyst	共著	2021年9月	J. Am. Chem. Soc., 143: 16599-16609.
(論文) Dearomative enantio- and diastereoselective difluorination of resorcinol derivatives	共著	2021年7月	Tetrahedron, 96: 132355.
(論文) Dual-Role Catalysis by Thiobenzoic Acid in C α -H Arylation under Photoirradiation	共著	2021年1月	ACS Catal., 11: 82-87.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 相間移動触媒を用いる脱芳香環化型不斉フッ素化反応		2023年7月	第38回創薬セミナー
(演題名) トリフルオロメチル基形成を伴うジフルオロアルケン類の不斉フルオロアミド環化反応		2023年10月	第46回フッ素化学討論会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学分野
職名	助教	氏名	大内 仁志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2023年度	(生活の化学) 講義内容は出来るだけ身近な例を挙げ、化学に馴染みのない学生にも理解しやすいよう工夫している。また毎回、日常的な出来事を題材としたレポート課題を課すことで、化学的な視点で物事を見る力が得られるよう工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年度	(生活の化学) 全15回分の講義スライドを新規に作成し、抜粋を授業資料として学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
ドクササコ有毒成分同時分析法の調理加工品への応用	共著	2023年4月	食品衛生学雑誌 2023, 64, 89-93
Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key Compound in Oceanic Harmful Algal Blooms	共著	2023年1月	Org. Biomol. Chem. 2023, 21, 1653-1656
S-Adenosylhomocysteine Analogue of a Fairy Chemical, Imidazole-4-carboxamide, as its Metabolite in Rice and Yeast and Synthetic Investigations of Related Compounds	共著	2021年1月	J. Nat. Prod. 2021, 84, 453-458
Total synthesis of sophoraflavanone H and confirmation of its absolute configuration	共著	2020年4月	Org. Lett. 2020, 22, 3820-3824
Ribosides and Ribotide of a Fairy Chemical, Imidazole-4-carboxamide, as Its Metabolites in Rice	共著	2019年9月	Org. Lett. 2019, 21, 7841-7845
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
田中 慎、千葉二矢、石田敬士、林 尚毅、角川仁規、大内仁志、吉村文彦、藤間達哉、横島 聡、稲井 誠、滝田 良、福山 透、菅 敏幸：効率的炭素骨格構築を鍵とするモルヒネの合成研究		2023年8月	第57回有機反応若手の会
内田雅哉、新田目かおり、大内仁志、稲井 誠、吉村文彦、滝田 良、菅敏幸：ハリコニンBの全合成研究		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
石田恵崇、大内仁志、菅 敏幸、長岡由香：ドクササコ有毒成分同時分析法の調理加工品への応用		2023年10月	第119回日本食品衛生学会学術講演会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年5月～現在	日本薬学会会員		
2012年2月～現在	有機合成化学協会会員		
2022年9月	第64回天然有機化合物討論会実行委員		
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022協力委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学分野	職名 准教授	氏名 大橋 若奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年度	担当する免疫学と生物系実習では、教科書に加えて関連する最新情報や要点、補足情報を記載したスライドを作成して講義を進めた。スライドはpdf化してダウンロードできるとともに、印刷物として配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年度	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)で使用するレジュメを作成し学生に配付した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
腸内細菌叢(マイクロバイオーム)を介した母子連関	共著	2023年5月	DOHaD先制医療への展開 編集: 日本DOHaD学会 金原出版株式会社
乳幼児期のマイクロバイオームによる免疫制御	共著	2022年7月	FFIジャーナル Vol.227 No.3 2022
Sitafloxacin reduces tumor necrosis factor alpha (TNFα) converting enzyme (TACE) phosphorylation and activity to inhibit TNFα release from lipopolysaccharide-stimulated THP-1 cells.	共著	2021年12月	Scientific Reports 11, 24154
Symbiotic polyamine metabolism regulates epithelial proliferation and macrophage differentiation in the colon.	共著	2021年4月	Nature Communications 12(1), 2105
Mast cells play role in wound healing through the ZnT2/GPR39/IL-6 axis	共著	2019年6月	Scientific Reports 9(1):10842
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The role of maternal gut microbiome in intrauterine fetal growth and development		2023年12月	第46回日本分子生物学会
(演題名) The physiological role of endoplasmic reticulum-resident Zinc transporter ZIP7 in the gut epithelium and humoral immunity		2023年12月	第46回日本分子生物学会
(演題名) 脂肪組織のマクロファージにおけるGPR35 シグナルの生理作用解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブ ロック・日本薬学会東海支 部合同学術大会2023
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年9月～現在	日本微量元素学会 代議員		
2019年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	職名 助教	氏名 河本 小百合
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年9月	座学での説明だけよりも実演し手技を見せながら説明を行うことで、学生が理解しやすいように工夫した。(実務事前実習)	
	2023年5月	例示された症例についてSGDを行っている学生に対して、頻回に巡回し不明点や困り事を早期に解決することで議論が円滑に進むように指導した。(臨床薬学演習)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年12月	2年生を対象とした臨床薬学演習で用いる新たな症例及び講義資料を作成した。	
	2023年9月	4年生を対象とした臨床薬学演習で用いる新たな症例及び講義資料を作成し、さらに既存の症例及び講義資料をアップデートした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2023年12月	OSCE実施委員として運営を行った。	
	2023年3月	薬剤師業務に関するVR動画撮影に薬剤師役として出演した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Palatability of Aripiprazole Gummies Prepared from Commercially Available Products: Pharmaceutical Formulation for Improving Patient Adherence.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull., 71, 441-446
(論文) Development of a strategy to identify and evaluate direct and indirect activators of constitutive androstane receptor in rats.	共著	2023年11月	BPB reports, 6, 184-188
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 院内製剤アリピプラゾール含有グミ製剤の調製とその服用性評価		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
(演題名) 液体クロマトグラフ質量分析計を用いた血漿中ニンテダニブ濃度分析法の開発とバリデーション		2023年9月	第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム
(演題名) アリピプラゾール口腔内崩壊錠を用いたグミ製剤の開発と服用性評価		2023年9月	第31回DDSカンファランス
(演題名) アリピプラゾール含有グミ製剤の健康成人を対象とした味覚官能試験		2023年6月	第7回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
(演題名) 小児患者を対象とした院内製剤スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤含有グミ製剤の開発		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年9月3日	静岡県薬剤師会	令和5年度緩和ケア対応研修会で講義をした。	
2023年8月20日	静岡県薬剤師会	令和5年度臨床対応研修会で講義をした。	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報分子解析学
職名	教授	氏名	黒川 洵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年度～ 2023年度	主担当をつとめる薬物療法学1・薬物療法学2・臨床検査学では、ポイントをおさえた学習を促すよう意識したスライドメインの講義を行い、学生の理解度はレポート・小テストで把握し、個別コメントによるフィードバックおよび次の講義での補足説明に結びつけるという、PDCAサイクルを回している。医療系・生物系薬学実習では、動物モデルとシミュレーションを組み合わせ、薬が全身で作用するメカニズムの理解を深めさせた。大学院教育では、海外大学と連携して、COILを実践し、新聞等でも報道された。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年度～2023年度 2022年度 2023年度	Quizletアプリを用いた臨床検査用語の学習システム 性差医学・医療研修セミナーe-learning講座資料 神戸薬科大学エクステンションセンター卒後研修講座e-learning講義資料
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年12月2日 2021年8月 2020年6月	「品質保証と薬理学教育」JPW2022/日本学会議共催公開シンポジウム 「医薬品・食品の品質保証に関する薬学教育の現状と課題」生体機能と創薬シンポジウム2021 「医薬品・食品の品質保証に関する薬学教育の現状と課題」第142回日本薬理学会関東部会
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年12月28日 2019～2023年度 2019～2023年度 2021年度	日本学会議 (報告) 「品質保証に係わるモノからの健康・医療へのアプローチ」 高校大学連携事業 高校出張講義「iPS細胞を用いたクスリづくり」 カリフォルニア大学デービス校とのCOILによるDX教育の実践 日本性差医学・医療学会 認定制度設立のためのクラウドファンディング
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	(論文) Determination of single-molecule transport activity of OATP2B1 by measuring the number of	共著	2023年11月
	(論文) The effect of a synthetic estrogen, ethinylestradiol, on the hERG block by E-4031.	共著	2021年7月
	(論文) A deep learning algorithm to translate and classify cardiac electrophysiology.	共著	2021年1月
	(論文) A computational model of induced pluripotent stem-cell derived cardiomyocytes for high throughput	共著	2020年2月
	(総説) 検査値・薬物動態での性差	共著	2024年1月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			J Pharmacol Sci, 153: 153-160
			Biomolecules, 11, 1-12
			Elife 10, e68335
			PLoS Comput Biol, 16, e1008109
			月刊薬事. 66: 297-301
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	(演題名) Pathophysiological roles of a macromolecular complex of cardiac KCNQ1 channel	2023年10月	ACT NOW symposium (Busan, South Korea)
	(演題名) iPS細胞を用いた薬物誘発性不整脈の病態解析	2023年6月	第8回日本心臓血管協会(JCVA)学術集会

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬生命化学分野	職名 准教授	氏名 小出 裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年度～ 2023年度	担当する生物化学Ⅰ、生物学入門、放射科学において、教科書に加えて、要点や関連情報（時事ニュース等）、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Increasing the siRNA knockdown efficiency of lipid nanoparticles by morphological transformation with the use of dihydrosphingomyelin as a helper lipid	共著	2023年5月	Biomater Sci, 11, 3269-3277
（論文）Cooling-induced, localized release of cytotoxic peptides from engineered polymer nanoparticles in living mice for cancer therapy.	共著	2023年3月	J Control Release, 355,745-759
（論文）Easy preparation of a liposome-mediated protein delivery system by freeze-thawing a liposome-	共著	2022年9月	J Mater Chem B, 10, 6768-6776
（論文）Synthetic hydrogel nanoparticles for sepsis therapy.	共著	2021年9月	Nature Communications, 12, 5552
（論文）Influence of purification process on the function of synthetic polymer nanoparticles.	共著	2021年3月	Chem Pharm Bull, 69, 773-780
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年9月～現在	日本DDS学会 代議員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品化学分野	職名 准教授	氏名 小西 英之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年度～ 2023年度	主任担当の有機化学V (2019年度) および医薬化学 (2020年度以降) では穴埋め式の独自のプリント教材を事前に配布し、講義を聞いて書き込むとノートとして使えるように工夫した。また、学修事項の定着を目的に講義ごとに小テストと質問収集のためのコメントシートに記入してもらい、次回講義の冒頭で質問に対する回答を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年4月 2020年12月	独自のプリント教材 遠隔講義用のオンデマンド動画教材	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年9月	薬学教育協議会主催の第15回有機化学系教科担当教員会議において、第8回次世代シンポジウム運営委員会で議論された化学系若手教員による意見や提言をまとめ、「薬学の若手研究者の今後、あるべき姿と将来、薬学部の教育・研究・危機管理について」という演題で講演した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月	化学ポータルサイト「Chem-Station」内の「有機化学実験基礎講座」動画コンテンツとして、研究室内で作成・利用していた実験教育動画を15本提供した。 (https://www.chem-station.com/blog/2022/04/ocl.html)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 気体分子等価体を用いる触媒的有機合成反応の開発	単著	2022年10月	有機合成化学協会誌, 80, 911-921.
(論文) Synthesis of Symmetrical Sulfides Enabled by a Sulfur Dioxide Surrogate Acting as a Divalent Sulfur Source	共著	2022年5月	Org. Lett. 24, 3663-3667.
(論文) Palladium-catalyzed external-CO-free reductive carbonylation of aryl sulfonates	共著	2020年10月	Tetrahedron, 76, 131639.
(論文) Discussion Addendum for: Pd-Catalyzed External-CO-Free Carbonylation: Preparation of 2,4,6-Trichlorophenyl 3,4-Dihydronaphthalene-2-Carboxylate	共著	2020年7月	Org. Synth. 97, 125-138.
(論文) Palladium-catalyzed One-step Synthesis of Symmetrical Diaryl Sulfones from Aryl Halides and a Sulfur Dioxide Surrogate	共著	2019年5月	Chem. Lett. 48, 760-763.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 二酸化硫黄等価体を用いるスルフィド合成 (依頼講演)		2023年11月	第54回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
(演題名) 二酸化硫黄等価体とブロモアレーンを用いるスルフィド合成法の開発		2023年11月	第54回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報分子解析学
職名	准教授	氏名	坂本 多穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する臨床検査学、薬物療法学I、II講義では、教科書に加えて、要点や関連情報を記載した講義資料をpdfととして配布した。講義動画を作成し、繰り返し講義内容を予習復習できるようにした。医療系・生物系薬学実習、医用工学実習、事前実務実習において、詳細な実験操作や背景・原理の説明を行い、安全かつ円滑に実験が進められるように指導を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2024年3月	コメディカルのための薬理学（朝倉書店）分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年8月	「薬理学シミュレーター教育の導入とオンライン教育への融合」 生体機能と創薬シンポジウム 2022
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年12月	「いのちの本質を理解するために」 大学への数学 巻頭言（東京出版）
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）
			発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
	（論文） Determination of single-molecule transport activity of OATP2B1 by measuring the number of transporter molecules using electrophysiological approach	共著	2023年11月
	（論文） C188-9, a specific inhibitor of STAT3 signaling, prevents thermal burn-induced skeletal muscle wasting in mice	共著	2022年12月
	（論文） A deep learning algorithm to translate and classify cardiac electrophysiology	共著	2021年7月
	（論文） Opening of Intermediate Conductance Ca ²⁺ -Activated K ⁺ Channels in C2C12 Skeletal Muscle Cells Increases the Myotube Diameter via the Akt/Mammalian Target of Rapamycin Pathway	共著	2021年3月
	（論文） TAK-242, a specific inhibitor of Toll-like receptor 4 signalling, prevents endotoxemia-induced skeletal muscle wasting in mice	共著	2020年1月
2.	学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月
			学会名
	（演題名） 「薬物腎排泄における性差の分子基盤」 シンポジウム発表		2023年6月
	（演題名） 「敗血症骨格筋障害解析を通じた全身性炎症性差の解明」 シンポジウム発表		2023年12月
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 准教授	氏名 佐藤 秀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、授業で概要を解説する。また教科書や配布資料中で重要なポイントを再度確認し、演習問題等を通じて学生の理解と知識の定着を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Stabilized Astaxanthin Nanoparticles Developed Using Flash Nanoprecipitation to Improve Oral Bioavailability and Hepatoprotective Effects.	共著	2023年10月	Pharmaceutics, 31;15(11):2562
(論文) Recent Advancements in the Development of Nanocarriers for Mucosal Drug Delivery Systems to Control Oral Absorption.	共著	2023年11月	Pharmaceutics, 30;15(12):2708
(論文) Development of stabilized fuzapladib solution for injection: forced degradation study and pharmacokinetic evaluation.	共著	2022年6月	Pharm Dev Technol, 27(5):565-571
(論文) Development of Poly(lipoic acid) Nanoparticles with Improved Oral Bioavailability and Hepatoprotective Effects of Quercetin.	共著	2022年5月	Mol Pharm, 2;19(5):1468-1476.
(論文) Design and Characterizations of Inhalable Poly(lactic- co-glycolic acid) Microspheres Prepared by the Fine Droplet Drying Process for a Sustained Effect of Salmon Calcitonin.	共著	2020年3月	Molecules, 13;25(6):1311
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
(演題名) Development of poly(lipoic acid)-based nanoparticles to improve oral bioavailability and hepatoprotective effects of quercetin		2023年11月	Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2023
(演題名) Dexamethasone-loaded colon-targeting UniORV® with improved anti-inflammatory effects and reduced risks of systemic side effects		2023年10月	AAPS PharmSci 360 2023
(演題名) ナノ粒子設計を基盤とした吸入製剤開発		2023年9月	第14回粉末吸入製剤研究会シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース		
2019年4月～現在	静岡 DDS 研究会 事務局		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	創薬探索センター
職名	准教授	氏名	澤田潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当科目（創薬探索学特論）において、独自作成したスライドを用いて講義を行った。スライドはPDFファイルとしてイントラネットで事前配付した。創薬研究と生命倫理の関連性について触れ、学習の動機付けを行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～ 2023年度	創薬探索学特論で使用する、抗がん剤創薬の歴史および最新の創薬手法についてまとめた講義資料を作成し、毎年更新している。化学系薬学実習1/11で使用する実習書（創薬探索センター実習担当部分担）を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
	（論文）Crystal structure of the motor domain of centromere-associated protein E in complex with a non-hydrolysable ATP analogue.	共著	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
	（論文）Various effects of two types of kinesin-5 inhibitors on mitosis and cell proliferation.	共著	2023年2月 FEBS Letters, 597, 1138–1148
	（論文）Design, synthesis, and evaluation of a novel prodrug, a S-trityl-L-cysteine derivative targeting kinesin spindle protein.	共著	2021年11月 Biochem Pharmacol., 193, 114789
	（論文）Structure and comparison of the motor domain of centromere-associated protein E.	共著	2021年4月 Eur J Med Chem., 215, 113288
	（論文）Structure and comparison of the motor domain of centromere-associated protein E.	共著	2021年3月 Acta Crystallographica Section D: Structural Biology, 77, 280-287
	（論文）Selective inhibition of spindle microtubules by a tubulin-binding quinazoline derivative.	共著	2019年11月 Mol Pharmacol., 96, 609–618
2.	学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
	（演題名）紡錘体形成時における染色体整列を阻害する低分子化合物の作用機序解析	2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会第17回年会
	（演題名）キネシンCENP-Eモータードメインと阻害剤の複合体の調製と結晶化	2023年10月	令和5年(2023年)度日本結晶学会年会
	（演題名）CENP-Eモータードメインの加水分解前後の結晶構造の比較	2023年11月	第61回日本生物物理学会年会
	（演題名）紡錘体形成時における染色体整列を阻害する低分子化合物の作用機序解析	2024年1月	第41回染色体ワークショップ・第22回核ダイナミクス研究会
	（演題名）染色体コングレグションを制御する分裂期阻害剤の解析	2024年3月	日本薬学会第143回年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）

2022年5月～2022年11月

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022実行委員

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 准教授	氏名 高橋 忠伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年度～ 2023年度	担当する生物化学III、生物化学IV、微生物学、薬理学IVにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（新薬の紹介、時事ニュース等）、を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回、自作の確認問題を提示し、翌週にその正答・解説を配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年 2021年	糖鎖生物学 生命現象と糖鎖情報（名古屋大学出版会）、分担執筆 微生物学 病原微生物と治療薬改定 第8版（南江堂）、分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年7月 2020年7月 2020年7月 2021年5月 2021年6月 2021年11月	私の一冊の本「科研費獲得の方法とコツ」についての紹介および考えたことを静岡県立大学広報誌「はばたき」No. 139に掲載した。 コロナ後の世界 大学SDGs企画として、「コロナウイルスの理解と新型コロナウイルスの治療薬、取るべき対策について」のウェブエッセイを静岡県立大学ホームページに掲載した。 コロナ後の世界 大学SDGs企画として、「コロナウイルスの理解と新型コロナウイルスの治療薬、取るべき対策について」の公開講義を静岡県立大学公式Youtubeチャンネルに掲載した。 静岡県内高齢者の生涯学習学級として、「ウイルスのお話 インフルエンザウイルスと新型コロナウイルス」のテーマで静岡市西奈生涯学習センターで講演した。 こんな研究をして世界を変えよう「インフルエンザの新しい感染メカニズムを見つける！ 簡単ウイルス検出法を開発」を学校法人河合塾 みらいぶプラス・みらいぶつくホームページに掲載した。 日本医療研究開発機構（AMED）の創薬シーズ実用化支援基盤整備事業 感染症の創薬に関する勉強会にて、インフルエンザウイルス酵素の蛍光イメージング剤の開発と応用、感染症分野の創薬支援等について講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年度～ 2023年度	毎年1回、4月開催の本学全学部向む「バイオハザード実験センター利用者講習会」で、感染症（病原微生物）の関連法規と本学で使用可能な

		病原微生物について、講習会参加者（毎年100名程度）に講義した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Visualizing intracellular sialidase activity of influenza A virus neuraminidase using a fluorescence imaging probe.	共著	2023年10月	J Virol Methods 323, 114838
（論文） Assay of Functional analysis of sulphatide in influenza A virus infection and replication.	共著	2022年5月	Methods Mol Biol 2556, 97-122
（論文） Live imaging of virus-infected cells by using a sialidase fluorogenic probe.	共著	2021年12月	Methods Mol Biol 2274, 141-154
（論文） The antiviral effect of catechins on mumps virus infection.	共著	2021年10月	J Funct Foods 87, 104817
（論文） Fluorogenic probes for accurate in situ imaging of viral and mammalian sialidases.	共著	2019年6月	ACS Chem Biol 14 (6), 1195-1204
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） ウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年5月	木原記念横浜生命科学振興財団 バイオベンチャーアライアンス（BVA）創薬研究会
（演題名） ウイルス特異的シアリダーゼ蛍光イメージング剤の開発		2023年7月	三大学合同ミーティング
（演題名） インフルエンザウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年8月	JST イノベーションジャパン 大学見本市2023
（演題名） 新規おたふくかぜ予防・治療剤		2023年8月	JST イノベーションジャパン 大学見本市2023
（演題名） 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の原因ウイルスに直接作用する抗ウイルス剤の研究開発 -ウイルス種の異なるシアリダーゼを特異的に蛍光イメージングできるプローブ技術を用いた感染阻害/増殖阻害薬の創製		2023年8月	12th DSANJ Digital Bio Conference 2023
（演題名） ウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年10月	BioJapan2023
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会） 代議員		
2019年8月	第38回日本糖質学会年会 Advisory Borad		
2019年8月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2019年9月	第18回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム2019 実行委員		
2019年12月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2020年12月	The Dutch Research Council (NWO) The Vidi grant 審査員		
2021年6月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2022年1月	日本糖質学会誌Trends Glycosci Glycotecnol 論文審査員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品製造化学分野	職名 教授	氏名 滝田 良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年度～ 2023年度	担当している化学系薬学実習IIにおいて、保護メガネ・保護手袋の着用など、特に安全面において一層の対策を行なった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年6月	マクマリー有機化学 生体反応へのアプローチ第3版 (東京化学同人) 分担翻訳	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key Compound in Oceanic Harmful Algal Blooms	共著	2023年2月	Organic Biomolecular Chemistry 21: 1653-1656.
(論文) Base-induced dehydrogenative and dearomative transformation of 1-naphthylmethylamines to 1,4-dihydronaphthalene-1-carbonitriles	共著	2022年12月	JACS Au 2: 2758-2764.
(論文) Controlled Tetradeuteration of Straight-Chain Fatty Acids: Synthesis, Application, and Insight into the Metabolism of Oxidized Linoleic Acid	共著	2022年5月	Angewandte Chemie International Edition, 61: e202202779.
(論文) Mechanistic Details of Asymmetric Bromocyclization with BINAP Monoxide: Identification of Chiral Proton-Bridged Bisphosphine Oxide Complex and Its Application to Parallel Kinetic Resolution	共著	2022年2月	Journal of the American Chemical Society, 144: 3913-3924.
(論文) Hydromagnesiation of 1,3-enynes by magnesium hydride for synthesis of tri- and tetra-substituted allenes	共著	2021年1月	Angewandte Chemie International Edition, 60: 217-221.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 元素・結合・反応場の特性を活用する反応開発と分子機能		2023年8月	第57回有機反応若手の会
(演題名) トリオキサトリアンギュレン誘導体への可視光照射によるヘテロ元素ラジカル種の生成		2023年9月	第39回有機合成化学セミナー

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 教授	氏名 竹内英之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年～ 2023年度	担当する生物化学III、生物化学IVにおいて、教科書に加えて、要点をまとめたpdfファイルを作成して配布し講義を行った。講義に対する感想を毎回Webで提出させ、個別にフィードバックするだけでなく、次回の講義で全体で共有することにより、履修者の自発的な学修意欲向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年	糖鎖生物学 生命現象と糖鎖情報（名古屋大学出版会）、分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			2022年度の生物化学IVの授業評価アンケート結果における優秀な成績が認められ、2023年度教育研究活動奨励研究費を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Characterization of galactosyltransferase and sialyltransferase genes mediating the elongation of the extracellular O-GlcNAc glycans.	共著	2024年2月	Biochem Biophys Res Commun 703, 149610
（論文）Visualizing intracellular sialidase activity of influenza A virus neuraminidase using a fluorescence	共著	2023年10月	J Virol Methods 323, 114838
（論文）Ameliorating effect of the edible mushroom hericium erinaceus on depressive-like behavior in	共著	2022年10月	Biol Pharm Bull 45 (10), 1438-1443
（論文）Glycoproteomics of NOTCH1 EGF repeat fragments overexpressed with different	共著	2022年7月	Glycobiology 37(7), 616-628
（論文）Significant roles of Notch O-glycosylation in cancer.	共著	2022年3月	Molecules 27(6), 1783
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）O-グルコース糖鎖修飾によるEGFリピートタンパク質の品質管理		2023年12月	第46回日本分子生物学会年会
（演題名）骨格筋系列の細胞におけるキシロース含有糖鎖の生合成調節機構に関する研究		2023年11月	USフォーラム2023
（演題名）Quality control of NOTCH and CRB2 proteins containing epidermal growth factor-like (EGF) repeats by xylosyl elongation of O-glucose glycans		2023年11月	米国糖鎖生物学会年会2023
（演題名）Notchシグナルに必須のO-グルコース糖鎖修飾の構造多様性と機能に関する新知見		2023年11月	第96回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年9月		糖鎖科学中部拠点第18回若手のカフォーラム世話人	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 生体機能分子分析	職名 教授	氏名 轟木堅一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年度-2023年度	必修科目である「分析化学I」「分析化学II」、「薬品分析化学」において、教科書に加えて、要点や発展的内容を記載した書き込み型スライドにより講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。実験動画の上映や演示実験、ゲストによるミニ講義、製薬業界や最先端研究に関する紹介やレポート調査など様々なトピックを取り入れた。選択科目である「自然科学概論」「医薬品製造開発論」を分担した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月 2021年4月 2020年3月	「分析化学実技シリーズ 機器分析編・8 液体クロマトグラフィー」編集・分担執筆 「パートナー分析化学II」改訂第4版分担執筆 「アップデート薬学機器分析学」編集・分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Efficient screening of anti-idiotypic DNA aptamers that bind specifically to trastuzumab for bioanalytical applications	共著	2023年6月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis Open, 1:100006
(論文) Development of a DNA aptamer that binds to the complementarity-determining region of therapeutic monoclonal antibody and affinity improvement induced by pH-change for sensitive detection	共著	2022年5月	Biosensors and Bioelectronics, 203:114027
(論文) Isotope Corrected Chiral and Achiral Nontargeted Metabolomics: An Approach for High Accuracy and Precision Metabolomics Based on Derivatization and Its Application to Cerebrospinal Fluid of Patients with Alzheimer's Disease	共著	2019年7月	Analytical Chemistry, 91:4396
(論文) High-Throughput Bioanalysis of Bevacizumab in Human Plasma Based on Enzyme-Linked Aptamer Assay Using Anti-Idiotypic DNA Aptamer	共著	2019年4月	Analytical Chemistry, 91:3125

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学分野	職名 助教	氏名 中西 勝宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年度～ 2023年度	担当する生物系薬学実習IIにおいて、実験手技のデモの実施、カメラ付き顕微鏡や実験結果の画像を示すなど、言葉や文字のみではなく視覚的にも理解しやすいように講義を行った。また、実習中は随時巡回し、手技に不安のある学生には個別に指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 腸内細菌がつくる乳酸・ピルビン酸により免疫が活性化されるしくみ	共著	2023年10月	生体の科学74:470
(論文) Prevention of Shiga toxin 1-caused colon injury by plant-derived recombinant IgA.	共著	2022年10月	Sci Rep, 12: 17999
(論文) Plant-derived secretory component gives protease-resistance to Shiga toxin 1-specific dimeric IgA.	共著	2021年6月	Plant Mol Biol. 106: 297-308.
(論文) Lettuce-derived secretory IgA specifically neutralizes the Shiga toxin 1 activity.	共著	2019年10月	Planta, 250: 1255-1264.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GPR31 signaling enhances immune responses in Peyer's patches by inducing dendrite protrusion of CX3CR1+ phagocytes to M cells		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) 腸内細菌代謝産物によるパイエル板貪食細胞の抗原取り込み促進作用の解析		2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) GPR35の脂肪組織マクロファージを介した炎症制御の解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術集会2023
(演題名) 病原性細菌感染におけるGPR31シグナルを介したパイエル板貪食細胞の抗原取り込みと免疫応答の解析		2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフォーラム2023
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年12月～現在	日本薬学会 会員		
2012年9月～現在	日本免疫学会 会員		
2015年6月～現在	日本植物バイオテクノロジー学会 会員		
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2022 協力委員		
2019年3月	日本薬学会139年会 一般口頭発表 優秀研究発表賞審査員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 統合生理学分野	職名 教授	氏名 原 雄二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年度から 2023年度	担当する機能形態生理学I、II、IIIにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（生理学に関する時事ニュース等）を記載したスライドを作成し講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。要点となる回ごとに演習問題を提示し、その解説を行うことで学生の理解向上を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）N-terminal domain on dystroglycan enables LARGE1 to extend matriglycan on α -dystroglycan and prevents muscular dystrophy.	共著	2023年2月	Elife.12:e82811.
（論文）The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.	共著	2022年11月	Life Sci Alliance. 6(2):e202201783
（論文）A Piezo1-KLF15-IL-6 axis mediates immobilization-induced muscle atrophy.	共著	同 年3月	J. Clin. Invest. e154611 (2022).
（論文）Cell-autonomous control of intracellular temperature by unsaturation of phospholipid acyl chains.	共著	同 年5月	Cell Rep., 38, 110487
（論文）Extreme deformability of insect cell membranes is governed by phospholipid scrambling.	共著	2021年6月	Cell Rep., 35, 109219
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Role of a mechanosensitive ion channel PIEZO1 in skeletal muscle regeneration.		2023年5月	Ion Channel Modulation Symposium 2023 (Tokyo)
（演題名）リン脂質フリップ・フロップによる冷温感受性イオンチャネルTRPM8の活性制御		2023年6月	第65回日本脂質生化学会（KKRホテル熊本）
（演題名）The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.		2023年9月	MBI Conference 2023: Mechanobiology in Health and Disease
（演題名）骨格筋再生における機械受容イオンチャネルの役割		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年8月～現在	日本筋学会 理事		
2021年6月～現在	日本脂質生化学会 幹事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 科学英語分野	職名 準教授	氏名 ホーク フィリップ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する薬学英語において、薬学専門の教員と一緒に教材を開発して講義を行った。教材はpdfと印刷物として配布した。学生が2人組でロールプレイ・リーディング・翻訳・等した。毎回確認テストを行った。 担当するイングリッシュ リサーチ プレゼンテーションにおいて、教科書を執筆して講義を行った。英語で研究発表をする学生のビデオを撮って、フィードバックした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Can ChatGPT be considered an author of a medical article?	共著	2023年4月	J Epidemiology, 33: 381.
(論文) Chrysanthemum morifolium extract ameliorates doxorubicin-induced cardiotoxicity by decreasing apoptosis.	共著	2022年1月	Cancers, 14: 683.
(論文) The impact of the American Society of Anesthesiology-Physical Status classification system on the treatment and prognosis of patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy.	共著	2022年6月	Int J Clin Oncol, 27: 1289.
(論文) Serum carnitine as a biomarker of sarcopenia and nutritional status in preoperative gastrointestinal cancer patients.	共著	2021年12月	J Cachexia Sarcopenia Muscle, 13: 287
(論文) Guidelines are urgently needed for the use of preprints as a source of information.	共著	2020年11月	J Epidemiology, 31: 97.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Basic academic communication: Oral presentations and research discussion		2023年5月	鳥取大学大学院連合農学研究科 Academic Science Communication Meeting 1 2023
(演題名) English presentation skills: Check the basics!		2023年9月	東京大学医科学研究所 IMSUT Young Scientists English Meeting 2023

(演題名) Advanced academic communication: Journal article writing and research ethics	2023年10月	鳥取大学大学院連合農学研究科 Academic Science Communication Meeting 2 2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2013年4月～現在	静岡県立総合病院 医学英語研修プログラム 指導講師	
2013年2月～現在	科学技術振興機構 スーパーサイエンスハイスクール事業推進 指導講師	
2014年7月～現在	徳島大学 薬学部 薬学英語研修プログラム 指導講師	
2016年11月～現在	中部大学 生命健康科学研究所 科学英語研修プログラム 指導講師	
2018年6月～現在	徳島文理大学 香川薬学部 薬学英語研修プログラム 指導講師	
2020年12月～現在	東京大学 医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点 英語セミナーシリーズ 指導講師	
2021年10月～2022年10月	東京女子医科大学 英語セミナー 指導講師	
2021年11月～現在	静岡社会健康医学大学院大学 English Seminar Series 指導講師	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 講師	氏名 南 彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する生物化学III、生物化学IV、生物学入門において、教科書に加えて最新の論文の情報等を提供することにより、学問への興味を持たせるように工夫をした。スライドはpdfと印刷物として配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年～ 2023年度	毎年1回、4月開催の本学全学部向む「アイソトープ利用者講習会」で、放射線の関連法規と本学の規定について、講習会参加者（毎年100名程度）に講義した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) The Function of Sialidase Revealed by Sialidase Activity Imaging Probe	共著	2021年3月	Int. J. Mol. Sci., 22 (6), 3187
(論文) Ameliorating effect of the edible mushroom hericium erinaceus on depressive-like behavior in ovariectomized rats	共著	2022年10月	Biol. Pharm. Bull., 45 (10), 1438-1443
(論文) Enhancement of elastin expression by transdermal administration of sialidase isozyme Neu2	共著	2021年2月	Sci. Rep., 11, 3302
(論文) The sialidase inhibitor 2,3-dehydro-2-deoxy-N-acetylneuraminic acid is a glucose-dependent potentiator of insulin secretion.	共著	2020年3月	Scientific Reports, 10(1), 5198
(論文) Mitigation of memory impairment in ovariectomized rats using garlic powder treated with subcritical water.	共著	2020年1月	Clin. Exp. Obstet. Gynecol., 47 (4), 546-551
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 脳におけるシアリダーゼアイソザイムNEU2の機能解明		2023年5月	第87回 日本生化学会 中部支部例会・シンポジウム

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学分野	職名 教授	氏名 森本 達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する疾患学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、症候学において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書			南山堂 図解「薬害・副作用学」(分担)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			第55回東海薬剤師学術大会 「チーム医療における薬剤師の役割 ～静岡県立大学での取り組み～」
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Myogenetic Oligodeoxynucleotide Induces Myocardial Differentiation of Murine Pluripotent Stem Cells.	共著	2023年9月	Int J Mol Sci. 2023;24(18):14380
(論文) MEF2C/p300-mediated epigenetic remodeling promotes the maturation of induced cardiomyocytes.	共著	2023年6月	Stem Cell Reports . 2023;18(6):1274-1283.
(論文) Monodemethylated Metabolites of Orally Administered Nobiletin: Identification and Quantitation in Rat Plasma and Tissues.	共著	2023年6月	J Agric Food Chem . 2023;71(26):10028-10036
(論文) 6-Shogaol, an Active Component of Ginger, Inhibits p300 Histone Acetyltransferase Activity and Attenuates the Development of Pressure-Overload-Induced Heart Failure.	共著	2023年5月	Nutrients . 2023;15(9):2232
(論文) Auraptene, a citrus peel-derived natural product, prevents myocardial infarction-induced heart failure by activating PPAR α in rats.	共著	2022年12月	Phytomedicine . 2022;107:154457.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) クルクミンの展開医療研究		2023年12月	第27回日本統合医療学会学術大会
(演題名) The Citrus Flavonoid Nobiletin Prevents Doxorubicin-induced Systolic Dysfunction by Inhibiting Cardiac Apoptosis		2023年7月	19th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬剤学	職名 助教	氏名 谷澤 康玄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019~2023年度	1年生の早期体験学習では、SGD形式による口頭発表を行った。また5年生の実務実習では口頭およびポスターによる成果発表を対面とWebを併用することにより、指導薬剤師も評価に参加できるようにした。ルーブリックに基づき評価した最優秀発表を表彰したことも、学生のモチベーションアップにつながったと考える。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年7月	本学病院・薬局実務実習における学生の経費負担適正化に向けたルール作り
4 その他教育活動上特記すべき事項		2023年4月 2023年7月 2022年7月	令和5年度静岡県立大学薬学系就職説明会事務局 第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ事務局 第90回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ事務局
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanistic analysis of bladder cancer suppression by brassicasterol in a rat model of N-butyl-N-(4-hydroxybutyl)nitrosamine-induced bladder cancer	共著	2021年4月	Traditional & Kampo Medicine, 8, 163-169 (2021)
(論文) A mechanism by which ergosterol inhibits the promotion of bladder carcinogenesis in rats	共著	2020年6月	Biomedicines, 8(7), 180
(論文) Inhibitory effect of ergosterol on bladder carcinogenesis is due to androgen signaling inhibition by brassicasterol, a metabolite of ergosterol	共著	2020年5月	J. Nat. Med., 74(4), 680-688
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年6月~2023年9月	公立大学連携薬剤師生涯学習支援講座事務局		
2023年10月	令和5年度薬草講座講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 助教	氏名 渡邊 桂佑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年度	(薬剤系薬学実習) 実験前に基本知識を復習することで、実験内容をより理解できるように実習を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2023年7月16, 17日	第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海(静岡) 修了	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Comparative observation and analysis of preference behavior based on three types of taxes and locomotor activity in the goldfish, <i>Carassius auratus</i> .	共著	2023年2月	Zool. Sci. 40: e1-6.
(論文)Distribution of neuromedin U (NMU) like immunoreactivity in the goldfish brain, and effect of intracerebroventricular administration of NMU on emotional behavior in goldfish	共著	2022年10月	Peptides. 156: 170846
(論文)Intracerebroventricular administration of α -melanocyte-stimulating hormone (α -MSH) enhances thigmotaxis and induces anxiety like behavior in the goldfish <i>Carassius auratus</i>	共著	2021年8月	Peptides. 145: 170623
(論文)Intracerebroventricular administration of arginine vasotocin (AVT) induces anorexigenesis and anxiety like behavior in goldfish	共著	2019年9月	Peptides. 119: 170118
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年4月～現在	日本薬剤学会会員		

(演題名) 特異な骨格構造を持つ植物由来ステロイドの生合成メカニズム解明	2024年2月	学術変革領域研究(A) 予知合成科学 第3回公開シンポジウム
(演題名) 有機/生物合成によるジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A および類縁体の実用供給法の構築	2023年9月	日本生薬学会第69回年会
(演題名) 含窒素三環性化合物 FR901483 の生合成および生産菌における自己耐性機構	2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2021年～2023年	日本薬学会 生薬天然物部会 部会長	
2021年～現在	日本生薬学会 理事	
2017年～現在	静岡大学 客員教授	
2016年～現在	日本生薬学会 関西支部 委員	
2016年～現在	日本東洋医学会 東海支部 静岡県部会 幹事	
2015年～現在	英国王立化学会 RSC Advances Associate Editor	
2017年～現在	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 iotics, Council member	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生薬学分野
職名	助教	氏名	渡邊 正悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	(論文) Reactive azlactone intermediate drives fungal secondary metabolite cross-pathway generation.	共著	2023年1月
	(論文) Total Synthesis of the Cardiotonic Steroid (+)-Cannogenol	共著	2021年2月
	(論文) Synthesis of Oxy-Functionalized Steroidal Skeletons via Mizoroki-Heck and Intramolecular Diels-Alder Reactions	共著	2019年9月
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	(演題名) 有機/生物合成によるジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclipin A および類縁体の実用供給法の構築	2023・9	生薬学会
	(演題名) ジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclipin A および類縁体の実用的供給法の構築	2023・10	天然薬物の開発と応用シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在		日本農芸化学会会員	
2019年～現在		日本薬学会会員	
2021年～現在		有機合成化学協会会員	
2021年～現在		日本生薬学会会員	

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。